



凡人くらぶ  
清水 宏  
議員

## ▼古川市政一周年「市民が主役」は買われているか

Q 大介護時代における市政の基礎は。今後ますます保健、医療、福祉分野の財政負担の増大が予想される。総市民参画、総市民連携による市民が主役となるまちづくりを目指したい。

Q 個人情報保護を理由に高齢者情報を地域に出せない現状がある。地域づくりを応援する市の取り組みはどうか。

A 災害時や高齢者の日々の生活の安全のため、積極的に取り組みたい。

Q 本市における認知症カフェの動きと国や県の方針はどうなっているのか。

A 本市では、民間において来年度の開設に向けて準備を進められているようである。認知症カフェはオレンジプランにも盛り込まれており、国の助成制度もあると聞いている。

## ▼高潮対策の進捗状況

Q 現在の進捗状況はどうか。

A 抜本的な対策として土地のかさ上げ案、高潮堤防案、水門と排水ポンプ案の三案を提案し、地元への説明会を

開催している。市としては費用対効果等を勘案し、高潮堤防案を進めたいと考えており、地元の意見を聞きながら県と一体となって取り組んでいきたい。

Q 高潮協議会の定期開催と専任職員の必要性についての考えはどうか。

A 市民安全課による防災に対する人的な取り組みと、建設部によるハード事業の推進を一体として取り組み、高潮協議会を進めていきたい。

## ▼新観光ビジョンへの模索

Q 高規格道路の整備でストローク現象による衰退の心配はないのか。

A 高速道路などの交通網の発展により人や物の流れが加速し、地方都市が衰退する現象が全国各地で発生しているが、観光客を呼び込めるよう島原の魅力を引き出し、情報を発信していくことが大切だと考える。

Q 天如塔は建立から百年が経過し老朽化が進んでいる。修復活動の動きはあるようだが、どのような状況か。

A 本年九月に修復委員会が組織され、資金援助を呼びかけられている。また県と市の景観資産助成事業として三百万円の補助を加えて修復が実施されると聞いている。

## 【その他の質問項目】

### ◆特定秘密保護法について



庶民の会  
林田 勉  
議員

## ▼病児・病後児保育事業（一時預かり）の拡充を

Q 病後児保育は市内二カ園で実施しているが、対象者と利用状況はどうか。

A 利用対象は生後一年から小学校低学年となっている。利用はかかりつけ医での受診後、その医療機関から家庭医連絡票を持つてくることになっている。昨年度の利用者は延べ六十二人であった。

Q 保護者への周知の方法は。

A 出生時に渡している子育て応援ハンドブックに記載している。

Q 保育園等に依頼して設置箇所をふやせないか。

A 事業の運営には補助があるが、施設整備については補助の制度がない。今後、ニーズ調査を実施する予定であり、調査結果等を踏まえ、必要に応じて関係機関と調整したい。

## ▼小・中一貫校の可能性と、学力向上等について

Q 小・中一貫制度の利点と問題点は。

A 中学校入学をきっかけに、学校に馴染めず、学習意欲の低下や不登校になるなどの小・中ギャップの問題は解消されるが、六・三制の見直しに伴うシステムづくりや定着にかなりの時間を要することが考えられる。

Q 埼玉県八潮市では市内共通の問題集を作成し学力向上に効果があつている。本市でも取り組んではどうか。

A 来年度の全国学習状況調査に合わせて、市内共通の春休みの問題集を考えているところである。

Q 教職OBに寺子屋的な授業を依頼してはどうか。

A 来年度、夏休み期間中の月曜日から金曜日まで、公民館を活用してスクールキッズという講座を計画している。講師は教職OBを初め、公募により募集し、約三時間、自学自習を行う場を設定する予定である。

## ▼新たな部・課・班の名称変更に伴うその役割や目的は何か

Q 部署の名称を変えたが、職員の意識改革が必要だと思う。市長はどう考えるか。

A 職員のやる気を引き出し、市民から信頼され感謝の言葉をいただけるような市役所を目指したい。